

令和5年度 地域づくり団体活用支援事業実績(地域づくり団体)

NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
1	本のソムリエ団長・世話人会	福岡県飯塚市	本のソムリエ団長	教育関連講演・読み聞かせ・経営セミナー講師・翻訳家	読書で広がる世界 一講話や読み聞かせ活動を通して	令和5年6月14日(水)～令和5年6月17日(金)
	講演内容			事業成果		
三保育園、三小学校では、団長さんオリジナル世界旅行記動画、絵本「けばけば」は「はやく大きくなりたい」「もっと食べるのだから？」等を実態に合わせ、電子黒板等に拡大したり、じかに見せたりしてハイブリッド読み聞かせをされた。本を題材に夢を持ち、夢をかなえたいするために努力することや友達、先生、家族を助けたり、やさしくしたりすることを伝えられた。登場人物の気持ちに合わせた読み方や、子どもとのやり取りで子どもたちの集中力、興味関心を非常に高められた。特に絵本「もつとたべるのだから」では子どもたちを十分に惹きつけられ子どもたちの主体的な発表を多く引き出された。地域の皆様への講話においては「読！団長と行く世界旅行」で世界旅行の画像をもとに講話をいただいた。世界の文化・芸術・食文化の話や、コロナ禍で閉ざされた気持ちを広げてくださった。			三日間という短期間に559人の方が参加され、じかに団長さんの話を聞くことができた体験が、大きな成果の一つと考える。子ども達は「けばけばさんのようにやさしくなりたい」「夢をあきらめない」「本を読むのが楽しかった」「団長さんにまた来てほしい」「団長さんのように世界を旅行したい」「たぐさんの本を読みたい」などと話していた。また保育園児は全身で読書の楽しさを表現していた。読書の興味・関心を高めたことや、自己肯定感を高め夢を叶えることや、自分や人を大切にすることを考える気化器となつたと思われる。先生方は「より子どもの意欲を高める読み聞かせについて考えさせられた」保育園の園長からは「ほんの読み聞かせ方について若い先生の人材育成につながった」と話された。地域の皆様も「ずっとコロナ禍で、団長さんの話でほっとしました」と話された。素晴らしい世界の文化に触れ、心豊かに学び続けることの楽しさを味わわれたようだ。保育園、学校、地域の皆様より「また来てほしい」という強い要望をいただいた。以上のことより、今後もほんのソムリエ団長の読書活動を継続したいと考える。			
2	特定非営利活動法人 つがる野文庫の会	青森県つがる市	山内 久子	あおり被害者支援センター理事(元秋田看護福祉大学教授)	『ある日突然最愛の娘を奪われて・・・』 ～市民とともに命の重さを考える～	令和5年5月28日(日)
	講演内容			事業成果		
昨今の飲酒運転やお酒運転など理不尽な交通マナー違反による不慮の事故、また、ストーカー・DV・児童虐待など凶悪犯罪が後を絶たない現状から、市民とともに『命の重さを考える』をテーマに講演会を行う。			5年前、本誌での死亡飲酒事故(4人死亡)、また「京都アニメーション放火殺人事件」(5人死亡、4人重症)が22年前に発生し、以後、講師はその被害者にも寄り添う支援活動を行い、『命の重さや尊厳』のケアの必要性への説得力あるメッセージを伝え続けてきた。			
平成7年10月、大学生であった娘さんが同級生の男子学生にストーカー被害を受けた犯罪被害者遺族を招き、犯罪被害者によって大切な家族を失い精神的・身体的被害に加え、事件後の周囲の人々による態度・反応から喪失感・孤独感・不信任感など日々を渡る苦難を『ある日突然最愛の娘を奪われて～犯罪がその後にもたらすもの～』として語る。			本講演会において、一般市民(民生委員・保護しつがる警察署員等)にその思いが強く伝えられ、同様に「誰もがいつでも被害者になる可能性がある」とへの理解と注意喚起を促すとともに、地域社会としての不慮の事故や凶悪犯罪の抑止力に寄与することができた。			
講演開始、本件をモデルとした内閣府によるDVD動画を放映する。						
3	古高取を伝える会	福岡県直方市	渡辺 芳郎	鹿児島大学法文教育学域法文教育学系教授	古高取を伝える会研修講座「薩摩焼の考古学」	令和5年5月13日(土)
	講演内容			事業成果		
薩摩焼の歴史を学ぶことにより高取焼の知識を深め、高取焼の魅力の発信に繋げる目的で鹿児島大学教授の渡辺氏に講演してもらった。			文禄・慶長の役に豊臣秀吉の朝鮮出兵で九州の大名たちは、多くの朝鮮陶工を連れ帰った。薩摩の島津義弘が連れ帰った朝鮮陶工たちによって発展したのが薩摩焼である。			
薩摩焼とは近世薩摩藩(鹿児島県全域より宮崎県南部)で生産された陶磁器の総称である。発掘調査された薩摩焼窯跡からは、日用品や茶道具幕府大名への献上品などが焼かれていたことが分かった。朝鮮陶工には沙器匠(ろくろ成形で生産し焼成室を壁で仕切る割竹式 登り窯使用)と甕匠(叩き成形で甕壺を作り焼成室に壁のない単室登り窯使用)があり、薩摩焼は朝鮮陶工の朝鮮系製陶技術は日本における需要への対応と技術導入により発展してきた。在地化プロセスは日用品(堂平窯)と茶道具(宇都窯、御里窯)とは違いがみられる。日本市場の需要はすり鉢、瓦、白薩摩(日本での呼び名)甕などで、また宇都窯、御里窯で生産された茶入は強い政治的な意味を持っていた。			特にどちらも古田織部や小堀遠州の影響を強く受けていることが伺える。薩摩焼の歴史は、高取焼の歴史と重なる点が多く、古高取を伝える会の今後の活動の幅が広がったように感じられた。			
17世紀初頭における薩摩茶入れは高価な贈答品として権力者たちの間でもてはやされた。						
4	特定非営利活動法人 放課後こどもクラブBremen	宮城県石巻市	宮澤 崇史	湘南ベルマーレサイクリングチーム 監督	宮澤崇史講演会 「SDGsと自転車の未来～自転車にやさしい石巻に～」	令和5年5月6日(土)
	講演内容			事業成果		
SDGsの17のゴールと自転車とのかかわりについて講演いただいた。自転車は排気ガスも出さないし、自分の環境の変化を肌で感じることができる。人間が自然と共存するのに大変有効な移動手段である。一方、社会と共存するためには、自他の安全確保が最優先事項となるヘルメット着用の重要性を理解させながらも、子ども達には安全に乗るための技術も教える必要がある。自転車に乗る楽しさを伝えるイベントを地域で開催し安全に乗るユーザーを増やしていきたい。			参加者アンケートに回答のあった17件の内訳は「大変良い」が13件、「良い」が3件、「ふつう」が1件。「近場に出かける時は車を使わず、自転車を利用したい」「ロードバイクに乗るので、そうこうする地域や環境について考えさせられた」「改めて自転車専用レーンなども必要だと思った」「自転車の可能性が無限大にあることが分かった」などの感想が寄せられた。石巻市が持続可能な市になるために必要なことは何かも尋ねたところ「行政が市民と協力して様々な取り組みを行う」「みんながみんなのことを考えてルールを守ること」「石巻といえば自転車の街」と言われるぐらい「自転車フレンドリーな街になってほしい」などの回答があった。			
5	特定非営利活動法人 sketch倶楽部	千葉県白井市	まつみ たえ 柳下 浩一郎	カントリーファーマーズ藤田牧場 専属牧場セラピスト・酪農教育 ファームファシリテーター ジミーfarm合同会社 代表元小学校教諭	「食」未来まちづくりプロジェクト	令和5年6月29日(木)、9月29日(金)、11月16日(木)
	講演内容			事業成果		
基調講演 牧場セラピストによる「命をいただくということ」をテーマに講演いただいた。昨今、繊細さん(HSP)という言葉が耳にするようになった。世の中が目まぐるしく変化し、心身のバランスを崩す人が多く現代社会を「こころ、からだ、いのち」を整えイ安を循環させる生活について、リフレクソロジー知識と牧場セラピストとの視点からお話いただいた。			人は生きるために「食」を欠かすことはできない。しかし、食べることは「いのち」をいただいていることである。参加者が子どもから教育の中で学んできた「食べる側の視点」ではなく、「食べられる側の視点」は、実際にその当事者から見聞きすることがなければ得られない、気づきや考えを参加者で共感することが出来た。そして「食」にかんじて地域や子どもたちに、なにをこれから伝えていくことができるのか。講演をきいた参加者がそれぞれの思いをグループワークで共有し合い、新たなつながりとながりの強化がみられました。			
人に限らず動物にも感情はある。スーパーにならぶ食肉は「いのち」のある動物で、生まれながらにして人に食べられる人生が決まっている牛たちが、「今から自分がどうなるのか」を理解して生きている。牛舎をでたら自分が人のためにどのようなことになるのかをわかっている。牧場セラピストだから伝えられる「食のいのち」について講演いただいた。						

令和5年度 地域づくり団体活用支援事業実績(地域づくり団体)

NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
6	特定非営利活動法人 奈良能	奈良県奈良市	山中 雅志 藤井 大雄 荒木 建作	一般社団法人 能楽協会	奈良発祥の無形文化遺産である能楽の普及による地域活性化	令和5年7月16日(日)
	講演内容			事業成果		
6	1.前説当講座の主旨説明 2.能楽の見どころを切り取った仕舞『高砂』の実演 3.能楽の歴史・能と奈良の深い繋がりについての講義 4.奈良に因んだ能楽から仕舞『野守』の実演 5.実際のお能の見方について『葵上』を取り上げて解説 6.能の小道具を舞台に出し、実演を交えて講演 7.囃子と奈良産の小鼓胴についての講演 7.実際の能の面(オモテ)を持ち込み、受講者に壇上にも上がってもらい、間近で見てもらいながら能面について講義 8.同時進行で能楽師の舞台上での体の動き「構え」と「運び」について実演しながら講義 9.同時進行で鼓体験。 10.再び受講者に着席してもらった後、仕舞『枕之段』を実演 11.謡『高砂』の実演			当講座は奈良の文化遺産であり、過去に奈良を活性化してきた能楽と、これからの奈良を活性化するための観客の育成を目的に実施した。能楽の歴史では奈良の地名が随所に登場し、能楽が奈良を活性化してきた歴史について理解して頂けた。 言葉での講演に加え、奈良に因んだ実演を交えることで、能楽と奈良に対し、より理解を深めてもらうことが出来た。後半は少人数に分かれて、能の面(オモテ)の講演、能楽師の体の動き、鼓の体験に、少人数ずつ分かれて受講して頂き、奈良と能をより身近に感じてもらうことが出来て、大変好評であった。		
7	ウミガメネットワーク三重	三重県津市	伊藤 将也	紀宝町ウミガメ公園の飼育員	三重県にやってくるウミガメの環境学習会	令和5年6月11日(日)
	講演内容			事業成果		
7	・世界中に生息しているカメの種類と体の特徴について説明し、ウミガメについても詳しく話した。拱眼するものによって、口の中の形が異なる。アオウミガメは海藻や海藻を食べるので、かみ切るのに都合がいいようにくちばしにギザギザがついている。植物を食べる陸ガメにも共通している。 ・ウミガメの捕食の動画を視聴した。			主催者から伊勢湾沿岸にもアカウミガメが産卵していることを伝え、ウミガメの足跡や死体発見時にはご連絡をいただくようお願いした。 ・少人数で海岸清掃という企画を行っていて、誰でも気軽に海岸清掃ができるように啓発を行っているので、協力してほしいとお願いした。		
8	道雪会	福岡県小牟田市	加来耕三	歴史家・作家	演題「立花宗茂と関千代」～二人の父との交わり～	令和5年10月8日(日)
	講演内容			事業成果		
8	立花宗茂と関千代について人物像の説明があった。特に立花宗茂の評価についてその時代の価値観の変化によって変容することや愚直に徹した生き方が評価され今見直されているとお話があった。また、歴史の見方について結果ばかりに因わずに原因やプロセスを見ることの重要性を強調されていた。大河ドラマ招致に向けて他の関連地域とサミット開催のアドバイスがあった。			道雪会が活動を始めて7年目になるが、今回初めて本拠地の新宮町を離れて隣の福岡市内で開催した。なるべく多くの人に立花宗茂と関千代を認知してもらったためである。その結果これまで最高の732人もの多数にお越し頂く盛況で認知度も向上した。先生よりアドバイスも頂いた。活動に弾みがあった。		
9	一般社団法人ウィーアーワン北上	宮城県石巻市	高田宏臣	NPO法人地球守 代表理事	官民連携の「ひととみどりまちづくり」を考える	令和5年6月19日(月)、20日(火)
	講演内容			事業成果		
9	市民と行政の協働による環境づくりをどのように具現化していくか、ともに考えていく機会とするため、高田氏を交えて他地域の事例や環境づくり手法を紹介いただき、意見交換した。 ■講演内容 ・地球守で実施している施工は「環境土木」であり、かつて地域の住民たちが自分たちの暮らしを守るために自ら行ってきた作業である。山が荒れてきた、崩れてきた、という現象はいつの時代にもよくある問題であり、それぞれで対応してきた。その結果として出来上がったのが里山景観であった。 ・人と環境をセットで再生することは、営みの再生と言える。伝統的な知恵は、SDGsにもつながるものである。 ・現代土木を否定するものではなく、危険度・緊急度など判断して選定する。その際に、環境土木を選択肢として持っておくことが強みになる。			・各参加者とも高田氏の実践する「環境土木」を詳細に聞くのは初めてのことであり、戸惑いもあったようであるが、環境土木は市民と行政が協働で実行できる手法なので、何か課題があった場合に真っ先に選択肢として浮かぶようになることを期待したい。 ・市民の側でも広く知ってもらい、自分たちの暮らしを自分たちで維持するという意識が重要と感じた。 関心を持った行政・市民の双方が学ぶ場として、当団体の平地の杜を活用していくことを検討する。 ・面談した石巻市長は高田氏の意見に共感し、高田氏を「石巻市杜づくり大使」に任命することとなった。このことは、当団体が目指す、人とみどりの力による「この街らしいまちづくり」への第一歩となったと思われる。		
10	一般社団法人おいしい防災塾	神戸市垂水区	①諏訪 清二 ②佐藤 公治 ③金井 貴子 ④中村 信太郎 ⑤中野 元太	①防災教育学会会長 ②南三陸町立歌津中学校主幹教諭 ③赤穂防災士会会長 ④神戸市長田区役所職員 ⑤京都大学防災研究所巨大災害研究センター 助教授	地域と連携した学校防災教育～地域資源をどう活用するか～	令和5年8月5日(土)
	講演内容			事業成果		
10	学校教育は新しい学習指導要領のもとで、他校種の学校や地域との連携が大きなテーマとなっている。防災教育の連携した活動の事例を発表してもらった。学校と地域の連携の事例をもとに、どうやればうまく連携が行われ、成果が上がり、実践が継続されるかを話し合い、学校と地域の連携のあり方を意見交換した。当日は様々な立場、所属の講師に登壇いただき、それぞれの関わり方から、地域と連携した活動、避難所運営ができないか、を話し合い、一般参加の方たちとの意見交換も活発に行なった。			基調講演は諏訪清二氏がテーマに沿った内容で講演。防災は教育機関と地域の連携が何より重要という事例等をお話いただきました。 そして佐藤先生の中学生在が避難所運営活動をしている中で、地域とどう繋がり、つながった結果活動がどのように変化したが等の内容で活動を発表いただき、続いてシンポジウムに登壇した赤穂防災士の会長金井氏、神戸市市役所勤務中村氏、諏訪氏、佐藤氏、中野氏に登壇いただき、参加の中学校教諭等の方からの質疑応答もあり、各々が自身が所属している教育機関で、佐藤先生の取り組みが実施できないか等意見交換を活発にしました。 地域と連携することが教育機関の教諭達からは難しいとの意見の中で、地域で活動をしている金井氏からの助言や事例等の発表、佐藤氏の活動初期の困難等を話していただき、何事も一つ一つの積み重ねでスピード重視ではなく、次回はより良いものを実施するという長期的な活動を基礎に考えること等の助言をいただきました。		

令和5年度 地域づくり団体活用支援事業実績(地域づくり団体)

NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
11	観光まちづくりの会	兵庫県丹波市	田口みほ	植物療法教室「FRAWORL」主宰	健康長寿日本一を目指す「暮らしの広場づくり」	令和5年6月10日(土)、7月22日(土)、8月26日(土)、9月9日(土)
	講演内容			事業成果		
観光まちづくりの会では地域住民の健康寿命を延ばし地域経済の活性化に繋げていくことを目的に数年前よりハーブを取り入れ、ハーブの栽培、活用法の普及、健康意識の向上に努めてまいりました。今後は更なる地域活性化や観光振興の促進、健康寿命延伸に繋げていくために、ハーブビジネスの育成につなげる目的を掲げ、区画整理や土づくりなどについてアドバイスをいただき、一部の区画では、商品化するハーブ(レモングラス)の植栽を行いました。また、来年度に向けて、苗の育成を指導頂きました。ハーブ産業に関心を持つ住民を対象に、薬草の歴史や薬草の作(6月カレンダー、7月ジャーナル、8月ペーパー、ハーブミント、9月レモングラス)に関する講演が行われました。またその他、ハーブティーの商品開発だけでなく、特別に6月と9月には芳香蒸留水(黒文字、日本薄荷)の講座や7月にはハーブ(セントジョーンズワート、蛇舌草)から得られるチンキを使って日常のセルフケアに役立つ実習も行われました。			参加者は、実際に薬草園の区画作りから土づくり、ハーブの種まきや苗の植え付け、手入れ、収穫を体験して、薬草園の運営に必要な技術を習得することができただけでなく、ハーブビジネスの育成につながる商品開発なども学ぶことができました。また、ハーブの知識を学び、生活に取り入れることで、地域住民の薬草に対する関心や親しみが高まり、セルフケアについては健康に対する意識づけや意識の向上が図られました。			
12	芦屋Tioクラブ	兵庫県芦屋市	①李亜輝 ②鍋谷勲	①二胡奏者 ②写真家	音楽と写真ボランティア養成講座 地域でボランティア活動をスタートしよう	①令和5年6月15・29日、7月1・13・27日、8月3・24日、9月7・21日 10月5・19・21日、11月2・16・25日 ②令和5年9月～11月中 2回
	講演内容			事業成果		
1、音楽ボランティア養成講座スキルアップ編を実施。二胡ワークショップで演奏のスキルを上げ音楽ボランティア人材の育成を図った。音楽ボランティアとして、老人福祉施設、高齢者のついで演奏フェスティバル、市民ステージなど音楽交流演奏会で地域の人材力活性化の取り組みを行った。 2、写真ボランティア養成講座スキルアップ編を実施。ワークショップで写真の基礎から応用技術を習得、作品鑑賞と展示のコツを学ぶ。老人福祉施設市民病院や芦屋川隧道ギャラリーなど、市民が気軽に立ち寄れる場所での心癒す写真展を開催した。地域の景観や風物詩を撮影した写真を素材にして地域再発見のDVD「ふるさと紀行」を制作し音楽交流イベントで上映した。			二胡ワークショップで楽器演奏のスキルアップとイベント企画・構成・実践を体験した。音楽交流会の経験を積み音楽ボランティアとしてモチベーション向上に繋がった。また、心を癒す写真展と二胡演奏会では地域再発見「ふるさと紀行」の映像を、絵本劇場は絵本を大画面に投影するスタイルのコンサートで、子どもから大人まで誰もが楽しめる内容だったとの評価を得た。地域文化の担い手を育成するボランティア養成講座が地域貢献活動として地域に生かされる意義ある事業展開となった。			
13	特定非営利活動法人 市民創作「函館野外劇」の会	北海道函館市	小川利人	登別時代村 殺陣師	市民創作函館野外劇殺陣ワークショップ	令和5年6月10日(土)、11日(日)、7月2日(日)
	講演内容			事業成果		
野外劇公演出演者の殺陣の技術向上を目的とし、殺陣の練習のスケジュールの中で、プロの殺陣師から函館野外劇の台本を元に殺陣の技術指導を受けた。開催回数は、当初、4回の予定であったが、講師の都合により3回となった。			野外劇の箱館戦争場面の殺陣演技向上のため、殺陣技術の修練を行い、有料公演に耐えるレベルを達成した。又、市民ボランティアが創り上げてきた公演を今後も継続し、地域の歴史を伝えていくことが可能となった。			
14	一般社団法人とりとーと	宮城県石巻市	荻野 淳也	一般社団法人 マインドフルリーダースhipインスティテュート 代表理事	日々の生活をストレスなく楽しく生きるための脳と心の整え方	令和5年8月5日(土)
	講演内容			事業成果		
ストレスと燃え尽き症候群の増加**：今日の労働者は、厳しい納期、大きな期待、競争の激化、絶え間ない変化など、多くのプレッシャーや要求に直面している。これらはストレス、不安、うつ病、燃え尽き症候群を引き起こし、健康、ウェルビーイング、パフォーマンスを損なう可能性がある。セルフコンパッションは、労働者のストレスレベルを下げ、否定的な感情に対処し、挫折から立ち直るのに役立つ			地域住民がマインドフルネスを体感し日々の生活をストレスを軽減する手法を学び、生きる為の脳と心の整え方を学ぶことで、自分や周囲の人たちをたいせつにしなが、多様性を認め互いに高めあい支えあう関係性が生まれた。			
15	えひめ地域づくり研究会 議	愛媛県松山市	①若松進一 ②塩崎満雄	①国土交通省観光カリスマ、元 双海町教育長 ②NPO 佐多岬ツーリズム協会 元事務局長	えひめの地域づくりのレジェンドと語ろう！	令和5年8月19日(土)
	講演内容			事業成果		
第1部では、若松氏より「えひめ地域づくり今昔物語」と題して、自身の地域づくりの原点や地域が直面している課題、大切にすべき6つのコミュニティの必要性について講演していただいた。また、地域づくりに限らず、自身の人生を豊かにするための秘訣についても語り、参加者にエールを送った。 第2部では、若松氏と塩崎氏を語り部に迎え、山本氏より質問を投げかけながら、参加者との質疑応答や交流を行った。失敗談等を交えながら、今後の地域づくりへの目標等について、和やかに歓談を行った。			地域づくりのレジェンドを招聘して、セミナー・交流会を開催するのは初の試みであり、コロナ禍で集まることのできなかった研究会会員の交流や、地域づくりに関する学びの場を提供することができた。セミナー後は、有志で交流会も開催し、16名が参加し、講師や参加者間で交流を深めることができた。 また、若松氏の講演については、ビデオ撮影を行い、地域づくりに携わる人材に広く視聴してもらえようというアーカイブ化予定。当日参加できなかった研究会会員に対しても、若松氏の地域づくりへの姿勢や、周囲を巻き込みながら双海町の活性化に貢献し、今もなお活動を続ける姿を発信し、会員の地域づくりへの関心や意欲を醸成していきたい。			
16	豊中駅前まちづくり推進協議会	大阪府豊中市	長濱龍一郎	まちみらいラボ主宰	豊中駅前にウォークアブルな余裕空間をつくらう	令和5年6月25日(日)、10月22日(日)、12月10日(日)
	講演内容			事業成果		
作成した3次元データに基づいてまちをVR化し、検討や合意形成に活用することの有用性を提示。その上でこの手法を用いて講師が直接関与した豊富な事例(伊勢市、大分市、富良野市など)に基づきその進め方、注意点、課題などを具体的に示しツールを活用した参加型まちづくりのプロセスのあり方が説明された。 また、これらのツール導入を念頭に置いてまちづくりの具体化を進めようとする協議会のアクションいじり検討会では、空間構成を考える際に、先立ってそこで行われる活動、活用を十分に考慮するという観点から、多様な関係者、利用者の意見を取り入れるプロセス考案についてアドバイスがあった。			具体的なまちづくり支援VRの活用事例について細かく説明があり一般参加者、協議会のメンバーのみならず一定数の行政職員の参加もあり、協調的なまちづくりを進めるうえでの理解が進んだと思われる。また、今後の駅周辺のまちづくり計画の推進についてもこのような有効なツールを導入していくという機運が生まれたように思われ、多様なメンバーの参画を促しつつまちづくりを進める礎となった。			

令和5年度 地域づくり団体活用支援事業実績(地域づくり団体)

NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
17	淡路ふるさと塾	兵庫県洲本市	福留 強	全国生涯学習市町村協議会代表世話人 元聖徳大学名誉教授	生涯学習と地域づくり、人づくり	令和5年6月23日(金)
	講演内容			事業成果		
生涯学習の理念は、「国民一人一人が、自己の人格を磨き、豊かな人生を送ることが出来るように、その生涯にわたって、あらゆる機会、あらゆる場所に置いて学習することが出来、その成果を適切に活かすことの出来る社会の実現を 図らなければならない」ということです。特急が停車する無人駅・嘉例川駅の駅弁や鳥取県北 栄町での名探偵コナンに出会える町という取り組みや志布志市民大など各地の事例から、多様なまちづくりの視点を紹介されました。			年齢を重ねていくと、高齢者や老人などと云われますが、そうではなく「創年」という意識を持ち、学んだことを活かして続けることこそ、生きがいづくり 地域づくりに繋がっていくことだと感じました。さらにその為に、創年のたまり場の場所を創り、学習成果を幅広く活かすコミュニティづくりの必要性を感じました。 また、市民が日常的に地域の活性化に参加するという市民活動こそが大切だと学びました。			
NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
18	未来につながるまちづくりの会	三重県南牟婁郡御浜町	三角 治	株式会社 地域創生 主宰	地域リノベーションで“誇れるまちづくり” 生涯学習の拠点、住民交流の場	令和5年7月2日(日)
	講演内容			事業成果		
有田川町に、地域の拠点となる交流センターを作った経緯 また退職後会社を立ち上げ、地域づくりの活動をしている 話をしてくださいました。なぜ交流センター「アレック」に大人の為の本を置いたか。図書館とは名付けず、専門的な本は、近くの大きな図書館から取り寄せ、子どもの本は従来からある小さな図書館に集約した。建物は公園と共にあり、広い芝生でお弁当を食べたりコンサートが出来る。町民の憩いの場となっている。また、館内では飲食出来堅苦しいイメージの図書館ではなくなりました。なぜなら本を読む人は、ごく一部で多くの人が集まれる場でした。内部には、舞台を作り小さなコンサートや展示が出来多目的に使える交流センターとした。			主に退職後の地域づくりについて。 ・地域づくりは人づくり、人との関わりでネットワークが出来、地域に還元されていく。 ・地域づくりは楽しまないでダメ、ボランティア精神だけでは続かない ・官はノウハウを知っている、民は細かく動けるので官と民が一緒になって活動して行かないとうまく進まない。 ・有田川町は「絵本の町」として売り出している。 ・子どもにとって本は心の栄養、本を図書館にだけでなく町中に絵本箱を置いて近くでいつでも借りられるシステムを作った。 ・又絵本交換会や絵本ワールド・絵本コンクールなどのイベントをしている。 以上の事は、民間でもできると思った。			
NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
19	学びあい「5色の絵の具」	石川県羽咋市	①福嶋浩彦 ②熊坂伸子	①中央学院大学教授 ②ブックカフェの業店主	助成が考える生活者としてのまちづくり	令和5年9月9日(土)
	講演内容			事業成果		
地域づくりの基本は、住民自治と政治参加のための基、その基本を学ぶために本学習会を開催した。また、女性の政治参加が問われている昨今、女性の発想から誕生した暮らしを守る地域活動を紹介し、住民自治について女性自身が学ぶ場を設けた。 【第1部】 (1)講師講演：テーマ女性と生活者の視点で自治をつくる (2)女性の活動発表：〈高齢者〉〈子育て〉〈人権〉〈環境〉の各分野から「設立のきっかけ」「現在の活動」「工夫したこと」「今後の課題」を盛り込んで活動発表をおこなった。 ※参加者は(1)(2)を聞き、感想や質問を付せん紙に記入。 【第2部】 講師2人(福嶋、熊坂)により、11部の感想や質問、2住民自治、政治参加 について、わいわいがやがや話し合う。12について参加者からのコメントに講師が答える形式で進めた。 【学習会終了後】講師2人が会場に残り、参加者からの個別質問に対応した。			参加者は、暮らしを守るために、生活者として、または、市民活動者として、何をどのように考え、どのように参加していくのかを「住民自治の観点」「人口減少時代の地域づくりの観点」などから、それぞれがそれぞれの立場で理解したように見受けられる。また、活動発表からは、女性の力強い活動内容に触発された方もいたように伺えた。(参加者アンケート結果参照) 今後は、より多くの人が住民自治を理解し地域づくりを進めていくことが課題である。そのためには、住民自治を具体的な地域づくり活動とリンクして考える 場を設けること。この理論と現場の融合を図ることが、持続可能な住民主体の 地域づくりの基盤になるのではないかと考えている。 参考：参加者アンケートから ① 男性21% 女性79% ② 87%が良かった(大変良かった35%、良かった52%)と評価。 ③ 88%が参考になったと回答。 ④ 参加者アンケートに記されたコメントでは、「住民自治の考え方が分かった」「小さくても質を高める地域づくり」「みんなで対話を重ねながら新しい時代をつくる」「女性を政策段階に参加させる」などがあった。 ⑤ 活動発表では「使命感をもって取り組んでいる女性が何人もいることが分かって力強く思った」など取り組み内容についての評価が高かった。			
NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
20	錦生自治協議会	三重県津市	①大川吉崇 ②磯部由香	①学校法人大川学園理事長 ②三重大学名誉教授	文化伝承家庭料理大集合	令和6年2月18日(日)
	講演内容			事業成果		
(磯部講師)「和食の良さについて」をテーマに1.和食(日本食)の特徴について、形式、多様性、調理法、食材、調味料の説明、2.和食の良さについて、栄養のバランス、和食(日本食)の健康への影響、昭和50年代の食生活と疾病予防への影響についてパワーポイントを使って講演をいただきました。 (大川講師)「みなさんの知らない三重県内の食」をテーマに錦生地区には独特の1正月の雑煮や2薬固めかきもちのように県下の他地区に無いものが残されていますが、それを続けていくことが、子どもたちの郷土愛の心を育み、これからの予想の付かない世を行きぬく心の安定剤に必要だと思いますと説明された後、錦生地区の皆さんにとって珍しい食べものとして、魚の生馴れ寿司、魚の漬物、うつぼ、サメ、どろどろたたき、こぶの巻きずしが紹介されました。			19名、2団体から29品の家庭料理を出品頂く事ができました。講師の講演を受けた後、家庭料理が運び込まれると、参加者は一斉にテーブルを取り囲み、色とりどりの家庭料理をカメラに取られていました。各出品者から料理紹介をして頂いた後、全員で試食をしました。郷土食を継承していくことの大切さを痛感すると共に地域交流も図られました。最後に磯部 大川講師から講演を受け食生活の大切さを学びました。			
NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
21	はらづつみ	新潟県新潟市	佐藤 千裕	C's kitchen/旬果甘味店ルコト 主宰	世代間交流、地場農産物の活用	令和5年7月26日(水)、10月14日(土)、令和6年1月20日(土)
	講演内容			事業成果		
大人と子どもで楽しむ季節の農産物を使った料理教室及び講演会を企画し、3回実施した。 (1)料理教室 SDGsの理念に基づき、地産地消する事でエネルギーの消費の削減に繋がる重要性を学び、野菜の廃棄物を少なくして食品ロスを減らす調理を実践した。初めて包丁を持つ子どもにも丁寧に基本的な使い方を説明して行われた。子どもが主体となって調理に取り組み、大人が見守り、サポートする形で行った。 (2)講演会 講師の食育活動、こどもげんきごはん塾の取り組みについて講演を行った。			SDGsについて学んで理解し、日常生活ですぐに実践出来る持続可能な取り組みを身近に感じる事が出来た。地元野菜をふんだんに使った季節の料理を堪能し、又、生産者から想いを語ってもらうことで、地域理解と郷土の愛着が深まった。大人と子どもの多世代が調理する事を通じて自然に交流し親睦を重ね、どの世代も地域、家庭で活躍できる持続可能な豊かな地域存続を自覚した。子どもが主体となって行った実習で達成感を深め、やる気が引き出された。この度の事業ははらづつみが目的としている多世代の「生きる力」「郷土愛」を育む事が出来た。また、元気なシルバー世代の参加者が多く、今後地域内の事業に協力し、活躍できる場の提供を促していきたいと思う。			

令和5年度 地域づくり団体活用支援事業実績(地域づくり団体)

NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
22	園井恵子を語り継ぐ会	岩手県岩手郡岩手町	山崎エマ	ドキュメンタリー映画監督/シネリック・クリエイティブ ディレクター	生誕110年記念事業・映画「無法松の一生」(昭和18年)主演女優・園井恵子のふるさと岩手町からの発信	令和5年8月20日(日)
	講演内容			事業成果		
<p>アメリカ人の夫が映画の修復の仕事をしていることから、昭和18年の映画「無法松の一生」に出会い、その4K修復の過程で「無法松の一生」のフィルムの数奇な運命を知った。主演は当代の名優・阪東妻三郎、ヒロインは岩手町川口出身の女優・園井恵子だ。このドキュメンタリーは「無法松の一生」のカメラマン・宮川一夫の弟子である宮島正弘氏の4K修復にかけた熱い想いを軸にして構成しており、さらにアニメーションを取り入れることで時代を超えて事実を現代に伝えることができた。岩手町の園井恵子を語り継ぐ会の撮影協力もあり、ドキュメンタリー映画「ワイルド・オブ・フェイト」へ映画「無法松の一生」をめぐる数奇な運命』として完成した。2023年、終戦75周年の記念の年に、4Kに修復された「無法松の一生」と共に、ベネチア国際映画祭及び東京国際映画祭で発表し高い評価を得た。</p>						
23	宮ノ前地区愛護隊	岡山県浅口市	①中田 晶三 ②中田 香織	①倉敷グリーンファーム代表 ②倉敷グリーンファーム従業員	苔玉づくりで 笑顔づくり 地域づくり	令和5年11月18日(土)、11月19日(日)
	講演内容			事業成果		
<p>二名の講師の方から教わりながら、参加者が好きな苗を各自選び、苔玉づくりを行いました。『土が耳たぶの硬さになったら、ダンゴ状にまとめ土を丸く伸ばし 真ん中に苗を置き、根元を苔で包み、糸でしっかり巻いて・・・』等々 丁寧なアドバイスをいただきながら、近隣市内の方々の会話も弾み、講師と参加者の距離が近い楽しい穏やかな雰囲気での講習会となりました。</p> <p>制作前にはできるか不安という意見が多かったのですが、参加者同士のふれあいや講師の方からのアドバイスもあり、笑顔で講習会を終えることができました。参加者同士が交流しながら一つの作業を行うことで、コロナ禍で希薄になった地域住民のつながりを強める機会になったと考えます。また、岡山県下の素材を用いて苔玉づくりができたことで、地元の良いところを改めて感じる場にもなりました。今後、地域住民のふれあいの場づくりを企画する際に生かしていきたいと思っております。</p>						
24	特定非営利活動法人 BaRaKa	長崎県五島市	①ゼミソン・ダリル ②八坂公洋	①九州大学助教授 ②アーティスト	Goto:Sounds of piano and nature	令和5年7月14日(金)、7月15日(土) 令和5年7月17日(日)
	講演内容			事業成果		
<p>2022年度に、カナダ出身で現在福岡在住、九州大学助教授の作曲家ダリル・ゼミソン氏がカナダ・アーツカウンシルの助成金を受けて、五島市及び新上五島町で映像を撮影し、音を録音して「五島(アーキペラゴ)」という曲を完成させた。今回、現在カナダ・モントリオール在住、長崎県佐世保市出身のピアニストである八坂公洋氏がその曲を五島市・新上五島町・そして九州大学で演奏を行った。地域づくりネットワーク協議会及び地域づくり全国協議会に助成いただいた五島市にて子ども向けのワークショップ、そして五島市・新上五島町でピアノコンサートを行った。</p> <p>○ワークショップ(参加者:9名) 7月16日(金)に「サウンドスケッチ:五島の音をさがしてみよう!」をテーマに子ども向けの音楽ワークショップを行った。ワークショップの内容の概略は、野外で音を採って、その音を絵に描いてみんなで何の音か当てる、というものであった。子ども達の想像力の豊かさと自由な表現方法に子ども達も大喜びで、もっとやりたい!ということで予定時間2時間の予定が2時間半以上の会となった。平日開催ではあったが、親子参加も数組あり、子ども向けのワークショップの機会を作ったことで、地域の子どもの想像力向上に寄与した。不登校の子どもも参加し、学校では体験できない、こういうことが学校であれば行きたいと喜んでくれた。 ○ピアノコンサート(参加者:111名) 五島市会場に73名、新上五島町会場に38名が参加。五島の映像を投影し、録音した音とピアノが即興でコラボレーションを行なった。75分の「五島(アーキペラゴ)」という曲を演奏した。演奏後は作品についての解説と質疑応答が行われた。質疑応答の時間では大人も小さな子どもまで質問が相次ぎ、こういった都会でも体験できないような機会がもつと欲しい、と口々に感想をのべていた。新上五島町での演奏会には石田町長も来場をいただき、文化芸術の機会の重要性を市民と共有し、音楽を通しての地域活性化の第一歩となった。また、演奏後、新上五島町の地域づくり団体と交流会を開催し、今後も地域づくり活動の協働をお願いした。</p>						
25	BeHereNaw企画	山形県南陽市	①前川雄一 ②前川亜希子 ③福田真	①②デザイナー ③フォトグラファー	お茶の産地と消費地を結ぶコミュニティ形成とブランディング	令和5年11月11日(土)
	講演内容			事業成果		
<p>温度など入れ方での違いも味わうことでお茶の奥行きを感じてもらった。 ・お茶の話を中心に、3名の多様な暮らし方、働き方、生き方、ライフスタイルを見せてもらった。 ・静岡と山形という距離的には離れているが、関係人口をむすぶことは可能であり、(お茶の)大きな流通システムの中では見えてこない、生産者や消費者を顔の見える関係にすることで、これまでとは違う関係や交流が見えてくるのではないかと。 ・お茶の生産としての茶畑ではなく、山村の風景としての茶畑を、関係人口を結ぶことで、飲むだけではなく、摘む楽しみ、刈る楽しみ、茶畑を訪れる楽しみと、展開していきたい。</p> <p>・複数の肩書きを使い分けたり、既存の働き方、暮らし方の枠組みにハマらない人を紹介することで、地方でも多様な生き方が可能なこと、ロールモデルを提示できた。 ・山形と静岡、産地と消費地という関係だけではなく、顔の見える関係を作ることで、関係人口がよ生まれ、参加者を含め、新しいコミュニティができる可能性を提示できた。 ・参加者中、女性16名、男性1名。世代は、20代2名、30代2名、40代5名、50代7名、60代1名 ・参加者はこれまでの企画講座で参加した人だけではなく、初めての方も多かったが、お茶を介して参加者同士の交流が盛んに行われた様子が伺えた。 ・来年新茶のシーズンには静岡を訪れたいという声があった。 ・山形でも来年からササマラボの新茶の販売を考えたい・お茶のワークショップの開催も予定したい。 ・参加者の方で、来年から静岡に移住するという方がおり、ササマラボのお二人と山形で繋がったという方がいた。</p>						
26	一般社団法人 青森県レクリエーション協会	青森県青森市	松木紀子	NPO法人愛媛県レクリエーション協会理事・事務局長	心と身体をリフレッシュ!健康寿命延伸の秘訣	令和5年11月5日(日)
	講演内容			事業成果		
<p>第1部身体をリフレッシュ!身近な素材を楽しくアレンジ 1歌の苦手な人でも音楽を楽しむ方法 ・歌詞から情景を想像する。 ・歌うことより鑑賞を意識する 2指折りリズム体操で脳をトレーニング ・2人で協調し合い、指を重ね合わせる高度なゲーム 3簡単な打楽器を演奏する ・鈴、鳴子、ハンドベルを各自が持ち演奏の役割を決める ・カラーで区別したリズム譜に合わせ、合同演奏を楽しむ 第2部心をリフレッシュ!しあわせ感をひき出す音楽効果 1歌、踊り、ゲームから学ぶ自己効力感 ・歌詞に込められた思いを楽しむ ・身体表現 お祭りマンボ 2自分らしい表現を楽しむコーナー ・「お誕生月仲間」嬉しい!思いに自分の感性で楽しむ ・ゲームを展開しながら、表現についての実践</p> <p>音楽の楽しみ方の本筋と、楽しませ方について習得できた。 絶えずことのない満面の笑顔で話しかける松木先生の講義には説得力があった。 上手に歌おうとするから恥ずかしくて歌えない人が多いが、歌詞を楽しみ、歌あそびを多く取り入れたレクリエーション技法を習得することで、歌が苦手な人でも自然に歌っている効果が、実践を通して体験できた。 今回、具体的に求める成果目標として、1音楽療法を通して介護予防・認知症予防の理解を深める2 傾聴・コミュニケーションの理解を深める3 短命県返上のための一環として、効果的なレクリエーションを取り入れる、の3点を挙げていたが、参加者の感想では3点とも理解が深まっていた。今後 県内のレク活動に活かされると思われる。</p>						

令和5年度 地域づくり団体活用支援事業実績(地域づくり団体)

NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
27	泉佐野歴史発掘委員会	大阪府泉佐野市	①井田寿邦 ②橋場夕佳	①地域史研究者 ②学校教諭	地域の歴史発掘講座	令和5年9月18日(月)
	講演内容			事業成果		
<p>今回は、第4回地域の歴史発掘講座の1部、2部と2名の講師による講演会を開催致しました。 ※第1部は、泉佐野市を含む泉州地域の郷土史を研究されている「泉佐野の歴史と今を知る会」事務局長：井田 寿邦氏による「平安中期から鎌倉期の長滝の役割」という講演を行いました。蟻通神社の氏子地域である長滝の古代からの歩みと平安時代を迎え長滝庄という荘園が藤原道長の娘の藤原彰子の荘園として成立。その経緯やその後の土地の開墾利権をめぐる争い、摂関家の対立の中で長滝の役割や地域の人々の平安時代から鎌倉時代にかけての動きについて講演頂きました。</p> <p>現在は宮内庁所蔵の鎌倉時代の長滝庄が記されている荘園絵図などを見ながら、講演を聞き、忘れられつつある長滝の歴史やその周辺の村々の動きを再発掘し、この地域が古くから人が住み開発されていったことを平安時代・鎌倉時代の日本の歴史との深いつながりも交えながら講演頂きました。</p> <p>※第2部は、東邦高等学校 教諭 能楽研究者(博士 文学)の橋場 夕佳氏による「平安文学と能〜『枕草子』に登場する蟻通神社から〜」の講演でした。泉佐野市長滝に鎮座する蟻通神社は、平安時代、清少納言の「枕草子」に名を残す由緒ある古社です。さらにその百年前、歌聖紀貫之も当社を訪れ「有りと星」の歌を詠みました。その『枕草子』や『源氏物語』をはじめとする平安文学についてお話して頂きました。また、紀貫之の物語で神社ゆかりの能「蟻通」の魅力をお話して頂きました。</p> <p>「源氏物語」を題材にした能の演目のお話や能の公演の構成など多岐にわたりお話しいただいた。</p>					<p>大阪南部に位置する泉州、泉佐野市における歴史や文化を地域 住民をはじめとした広い年齢層へ紹介、発信をすべく、泉佐野 歴史発掘委員会を立ち上げました。この地は弥生時代から稲作が行われ生産し、生活の舞台となっていました。その泉佐野市長滝に鎮座する蟻通神社にはいろいろなエピソードが存在します。室町時代の世阿弥作の能「蟻通」や蟻通伝説という古代の伝説などです。能「蟻通」は平安期を時代背景に紀貫之の物語です。</p> <p>今回は、第4回地域の歴史発掘講座の1部、2部と2名の講師による講演会を開催致しました。</p> <p>※第1部は、「平安中期から鎌倉期の長滝の役割」という講演で、蟻通神社の氏子地域である長滝の古代からの歩みと平安時代を迎え長滝庄という荘園が藤原道長の娘の藤原彰子の荘園として成立。その経緯やその後の土地の開墾利権をめぐる争い、摂関家の対立の中で長滝の役割や地域の人々の平安時代から鎌倉時代にかけての動きについて講演頂きました。遠く離れた京都に住む平安時代の貴族たちとのつながり、摂関政治との関係などを教わりました。また、歴史の教科書などにも掲載されている。現在は宮内庁所蔵の鎌倉時代の長滝庄が記されている荘園絵図などを見ながら、講演を聞き、忘れられつつある長滝の歴史を再発掘し、講演会に参加された方々も興味深く関心を持たれていました。この地域は古くから人が住み開発が進み、日本全体の歴史とも絡みながら発展して来たことを次世代に伝えて、後に続く人たちに継承していきたい。</p> <p>※第2部は、「平安文学と能『枕草子』に登場する蟻通神社から〜」の講演です。泉佐野市長滝に鎮座する蟻通神社は、平安時代、清少納言の「枕草子」に名を残す由緒ある古社です。さらにその百年前、歌聖紀貫之も当社を訪れ「有りと星」の歌を詠みました。その『枕草子』や『源氏物語』をはじめとする平安文学についてお話して頂きました。平安時代のすぐれた女性たちの文学やその関係性などをパワーポイントで面白く、分かりやすくお話しして頂きました。また、紀貫之の物語で神社ゆかりの能「蟻通」の魅力をお話して頂きました。</p> <p>現在、地元でも当社が平安文学にゆかりがあることをご存じのかたは、僅かしかいらっしゃいません。地域住民をはじめとした一般市民や文化愛好者がこの地を訪れる機会をつくり、文化交流のきっかけとなることを目指したいです。</p> <p>今後このような活動を継続して実施し、次世代の若者・子どもたちへ日本の歴史・文化芸術、また地元の伝承を継承していくことが、責務だと考え、一人でも多くの方を知ってほしいという信念をもって活動を続けたいです。</p>	
28	まつしろ現代美術フェスティバル実行委員会	長野県長野市	①杉原信幸 ②中村綾花 ③大澤真雄	①NPO法人理事長 ②NPO法人理事 ③合同会社代表	まつしろ現代美術フェスティバル2023のためのレクチャー	令和5年8月20日(日)
	講演内容			事業成果		
<p>インドネシア、マレーシアの先住民調査報告では杉原信幸と中村綾花がマレーシアのオラン・アスリ、マール族の木の面、ニパヤン飾り、ボルネオ島のビダム族とダヤク族、日本人として初めて訪れたセブジット村、ロンググリ村の祭り。ロングドラムの刺さった13mの高床の伝統建築バル。マハカム川の先住民、フロレス島、ティモール島の先住民、スラウェシ島のタナトラジャ。海の先住民オラン・ラウト。パプアの標族ダニ族。津波と地震と生きるニアス島の伝統家屋について語った。2部の大澤真雄のアートとまちづくりでは、1部を受け、講師の暮らす糸島の網引きや盆踊りから始まり、弓や槍、剣術の稽古が国指定文化財の文武学校で行われているという文化の豊かさや特異性を持つ松代の文化的遺産(ミーム)について、血による伝承だけでなく、体験によって宿る、アートが作家の移動し、宿し、文化を運び、新しい文化を生み出していることについて語られた。トーク後の杉原信幸のアドバイスでは、初開催となった日韓の交流展が来年度以降どのように継続していけるかについての相談と助言が行われた。</p>					<p>インドネシア、マレーシアの先住民調査報告から見てくる先住民の営みから生まれる創造の原点のような感覚を、日本の地方に残る文化と地続きに捉え、松代という歴史、文化的遺産を持つという土地の特異性を再認識する機会となった。大澤真雄が語った文化的遺産(ミーム)をキーワードに、その特異性をアートとまちづくりと繋げることで、懐深い松代の文化を次世代に伝える新たな展望を感じることができた。参加者からは安易に観光に走るのではない、歴史文化を大切にできた松代のボランティア精神と歴史が語られた。</p> <p>・杉原信幸のアドバイスでは、初開催となった日韓交流展の内容について話し合わせ、中国側とのやりとりを行ったコーディネーターのコミュニケーション能力不足が指摘され、コーディネーターの重要性と来年度は適切なコーディネーターの配置が提案された。中国の政治状況からや不安要素もあるが、まつしろ現代美術フェスティバルは地元との繋がりを強めて開催を目指し、中国側との交流展に関しては中国側の状況を見つつ前向きに継続するという方向性が共有された。</p>	
29	くまの木里山応援団	栃木県塩谷町	①谷本丈夫 ②柴野達彦	①名誉教授 ②大学院生	イヌブナ自然林ガイド人養成検討会	令和5年11月23日(水)
	講演内容			事業成果		
<p>高原山はもともとツキノワグマが息絶しており、開催前に風だより敷地内にクマの糞があったということで、現地検討会は安全が担保できないので中止とし、自然計画の官地 信良代表と谷本丈夫宇都宮大学名誉教授の講演を実施しました。谷本丈夫宇都宮大学名誉教授は「反目しない産業としての森づくりと環境としての森づくり」というテーマで講演いただきました。林野庁の森林施策や世の中のブームは一過性が多く、反省しないで次のステージに進んでしまっています。長い間小笠原の動植物の調査をしていて、人と自然の関係性を考えさせられています。現代社会は課題が多すぎるので、「目的を明確化」する必要があります。そして、地域の自然に再び焦点をあて、地道に取り組んでいくことが大切であり、「生業」ということも視野に入れていく必要があると述べられました。</p>					<p>・クマの問題も元々は人間が生活で使う山と生き物が住む山とに分かれていた人が人々が里山の資源を使わなくなったことによる放置が原因といわれています。先生のご指摘の諸現象についての反省が行われないままであることに改めて気づかされました。</p> <p>・先生ご指摘の「目的を明確化」も重要な視点で、いまは人間生活に身近な里山にスポットをあて、様々な諸問題を地域で解決していく重要性を再確認しました。</p> <p>・地域で課題解決していくために、2024年度は里山案内人養成(仮称)として進めていくことを確認しました。</p>	
30	げんき大崎	和歌山県海南市	①秋田大介 ②岡田未奈	①株式会社代表取締役 ②臨床工学士	脱炭素まちづくりカレッジin海南市	令和5年8月19日(土)
	講演内容			事業成果		
<p>気候変動や脱炭素の基礎知識を映像を交えながら学んだ後、参加者が仮想の町の18種類の職業プレイヤーになって温室効果ガス排出量をまちづくりで削減するカードゲーム型ワークショップを実施した。はじめは戸惑いながらもターンを繰り返すうちに自然と声掛けや交渉が盛んになり、最後には全員が協力してプロジェクトをどんどん成立させて、最終的には目標を達成することができた。ゲームのあと、グループで振り返りを行い、「対話でつながること」「協働すること」「地域全体、包括的な視点で考えること」がまちづくりで大事だということをしかり認識でき、とても楽しく体感しながら学んだ。</p>					<p>カードゲームには、実際の社会生活で起っていることが疑似体験できるようデザインされていて、脱炭素に関わるプロジェクトは誰でも取り組めること、プロジェクトを実施するためには、人、金、だけでなく住民の理解やコミュニケーションが必要なこと、自分だけのことを考えているだけでは何もできず、みんなで協力したり、声掛けしたり、お互い助け合ったりすることが必要なことなどが、ゲームをやっているうちに自然と理解して、終盤にはみな行動が変化した。小さなことでも自分から取り組み、さらに対話で人とつながることで、協働すれば大きなこともし遂げられることをこのワークショップで楽しく学ぶことができた。地域の人が集まって学ぶ機会を作ることができ、住民同士がお互いを知る接点をつくることができた。このような場づくりを継続していきたい。</p>	

令和5年度 地域づくり団体活用支援事業実績(地域づくり団体)

NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
31	鬼無里地区住民自治協議会	長野県長野市	①小平奈緒	①冬季オリンピックメダリスト	人権のついで「人とつながる」	令和5年12月2日(土)
	講演内容			事業成果		
子どもの頃から、様々な事に興味があり挑戦することの楽しさを知る事ができたこと。スタンプの時に母親から「あなたは決して一人ではない。いつも誰かが見守っている」と言われ、頑張れたこと。平昌オリンピックのエピソードにふれ、ライバルは決して敵ではない。お互いに高めあい、尊重しリスペクトできる存在であることなどを話され、人と人のつながりの大切さを伝えていただきました。			中学生にもわかるように丁寧に語りかけていただき、受験や部活動の大会などこれから様々な場面に挑まなければいけないことが出てきても、自分だけではない、周りの人たちに頑張ることの大切さを伝えてくれ、生徒や保護者にも理解しやすい内容だった。また、どんな状況になっても自分のやりたいことを言葉にし、挑んでいく事の大切さについて伝えていただき良かったです。			
NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
32	NPO法人原始感覚舎	長野県大町市	①安藤栄作 ②黒田将行 ③平野ももこ	①彫刻家 ②能造園代表 ③料理家・フードアーティスト	原始感覚における縄文と食と木彫	令和5年8月26日(土)
	講演内容			事業成果		
探検家、食生態学者の西丸震哉の記念館を中心に長野県大町市木崎湖畔で毎夏開催され、14年目の開催となる「信濃の国 原始感覚美術祭2023-山のしづめ、ささなみの水」において、食品添加物や農薬など食の安全性に警鐘を鳴らした西丸震哉の活動を継承し、オーガニックな食のアートを作る「ももカフェ」の活動を行っている平野ももこを招聘し、いのちを繋ぐ、食の重要性と安全性についてのトークイベントを行った。2011年に東日本大震災で被災し、原発事故を機に福島県から奈良県に移住し、平野田中賞受賞。円空大賞円空賞受賞した日本を代表する木彫家の安藤傑作を招聘し、斧を振る、木を彫ると言う原始的な身体感覚による木彫表現についてのトークを行った。山梨県の梅ノ木道跡で手作りの磨製石斧で木を伐り堅穴式住居を建てる実践考古学を行っている黒田将行を招聘し、縄文文化から原始感覚を考えあるトークイベントを行った。			原始感覚舎理事長の杉原信幸と中村綾花の先住民調査報告を受けて、縄文文化という日本人の原始感覚の原点から現代を見つめ、縄文時代に行われていた自然とともに持続可能な生活を送るいのちの円環について原始感覚舎メンバーが集まった人々と共有し、その感覚を現代にどう生かしていくのかを考える場を生み出した。また欧米化が進み、残留農薬や放射能、添加物などさまざまな問題に晒される日本人の身体と精神の源になっている食について考える機会を生み出した。アートと呼ばれる以前の、生活の中にあたりまえにあった創造に着目し、一部のインテリだけが評価するコンセプトだけで高価に取引される特別なアートではなく、生きることそのものの折りや美としてのアートの本質について語り合われた。後半は、会場の声に広がる形で、通訳を交えての海外からの声や、原始感覚的な食としての野生の茸の恵や大町という土地において原始感覚美術祭を行う意義について話され、訪れた人と作家達が共有することができたことは大きな意味があった。			
NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
33	みやぎボイス連絡協議会	宮城県仙台市	①内野 輝明 ②水野 敦 ③真壁 さおり ④石塚 直樹 ⑤増田 聡 ⑥手島 浩之	①(有)内野建設 代表 ②水野建築研究所 主宰 ③社会福祉士・フアンテーター ④(一社)みちのく復興・地域デザインセンター 理事 ⑤東北学院大学院経済学研究科 教授 ⑥建築家・都市建築設計集団 UAPP 代表	みやぎボイス2023 震災復興を100年のパースペクティブで考える	令和5年9月2日(土)
	講演内容			事業成果		
「100年のパースペクティブでポスト近代復興とは何かを考える」、「関東大震災 100年の経験をアナロジーに、東日本大震災の100年を考える」、「みやぎボイスを100年のパースペクティブで考える」、「100年のパースペクティブで、20年後の住宅復興を考える」、「災害と人権の100年」、「助け合える関係性のパースペクティブ 震災を経験してひとと人、ひととまちの関わりはどう変化してきたか」以上6つのテーブルテーマに則り、各分野の学識経験者や専門家である講師の方々の知識・経験をもとに、お考え等についてご講演いただきました。			関東大震災からの100年を議論の起点として、事前復興、住宅復興、災害と人権、変容と継続性、公助共助等に関する多角的かつ熱気ある議論は、みやぎボイスならではの混雑とした空気感を醸成しながらも、ラウンドテーブルで発せられるそれぞれの現場と当事者からの生の声には、視座や手法こそ違いますが復興まちづくりを契機とした『普遍的な社会課題』の解決へ至る期待感がありました。去る9/23にはみやぎボイスで議論した内容にも関連した『ふくしまボイス(日本災害復興学会主催)』が開催され、来る11/10には『JIA 建築家大会 2023 災害対策会議 シンポジウム』(JIA 主催)が開催予定で、みやぎボイスのプラットフォームが着実に拡がりを見せています。今後はみやぎボイス 2023 報告書をまとめ、皆様にご報告すると共に、これからの復興まちづくりのアーカイフとなるよう広く発信して参ります。			
NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
34	安藤昌益資料館を育てる会	青森県八戸市	①庄司進 ②三浦忠司 ③松田誠行 ④石橋司	①安藤昌益研究者 ②八戸歴史研究会会長 ③秋田県二井田公民館館長 ④石万代表取締役	安藤昌益資料館会館14周年記念 「元祿の世に革命思想あり安藤昌益と狩野亨吉」	令和5年11月11日(土)
	講演内容			事業成果		
シンポジウムのテーマは「安藤昌益を発見した人―狩野亨吉と安藤昌益」。基調講演者の庄司進氏は、書籍「危険な思想 狩野亨吉と安藤昌益」の筆者である。基調講演では、狩野亨吉の年譜を基に、その人柄や一生を紐解いていき、争いごとを好まず、昌益の難解な漢文を理解できるなど、昌益と亨吉の共通点が多く、二人の出会いが宿命的なものを感じると語った。シンポジウムでは、三浦忠司氏をコーディネーターに、松田誠行氏が、安藤昌益の郷土二井田の風土や慣習を紹介し、石橋司氏は、八戸の風土のしし肌離から、安藤昌益の思想を生み出すきっかけになった構図をわかりやすく解説し、我々の祖先に昌益の思想を理解した弟子が八戸にいたことを誇りに思うと熱く語った。			基調講演者の庄司氏、パネリストの松田氏や石橋氏が、それぞれの立場から狩野亨吉と安藤昌益の生い立ちやその時代の風土、生涯を深く掘り下げたことにより、来場者に以前よりもっと、昌益の事を身近に感じ、関心を持ってもらえるシンポジウムになった。シンポジウム後の来場者との質疑応答では、昌益の思想に共感し、埼玉で有機栽培農業を実践している方が、昌益のすばらしさをとつとつと語り、また48年前に八戸青年会議所で製作した安藤昌益のビデオ「風と土と風」を全国を巡り発信してきた方は、パネリストの昌益思想のきっかけがまさに、そのビデオそのものの内容だったことに驚きの喜びを語り、会場全体が、安藤昌益を応援する雰囲気になりました。			
NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
35	岡山建築設計クラブ	岡山県岡山市	能作 淳平	東京理科大学非常勤講師 ウサクジュンペイア-キテック主宰	南時計台周辺から表町を元気にしよう!	令和5年10月21日(土)
	講演内容			事業成果		
学生たちのプレゼンに先立ち、建築家能作淳平氏にご自分の設計事務所と共存している「シェアする商店」「富士見台トネル」や新しい試みの「会員制商品棚」「みんなのコンビニ」などの実際に経営している事例を基に賑わい作りやまちに人が集う仕掛けなどについて、熱のこもったご講演をいただきました。理論や研究ではなく、ご自分の経験に基づいて解説くださったので、学生はもろもろ一般の参加者にとってもわかりやすく、また実践的で役立つお話をしました。建築的アプローチとして小さな拠点を作ることから、都市計画、まちづくり、コミュニティー作りへと発展させていく途中の様子、今後の構想をお話いただきました。審査においても、経験に裏打ちされた実のある提案や、学生たちが気がついていない新たな可能性などを盛り込んでアドバイスをいただきました。			13チームの学生が参加し、自機の作品について、プレゼンテーション、質疑応答、フリートークなど、一日かけ、審査講評まで行った。どの作品も、力作ぞろい、また学生さんの若さと熱意により、参加者の皆様にとっても充実した一日になりました。学生達は、第一線で活躍されている能作先生や、設計クラブのメンバーから、さまざまな意見を聞くことで、自信の作品(考え)に対する考察がより濃いものになり、また他校他チームの作品やプレゼンテーションに触れることでお互いの刺激にもなりました。仲間と共同で、アイデアをまとめ作品を完成させていく過程で、人々がともに生活する社会について、さまざまなアプローチで考えていたようです。まちづくり、ものづくりへの関心もさらに高まったといえます。			

令和5年度 地域づくり団体活用支援事業実績(地域づくり団体)

NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
36	下野市自然に親しむ会	栃木県下野市	谷本 丈夫	宇都宮大学農学部名誉教授	トリア昆虫と植物の関係性について	令和5年9月17日(日)
	講演内容			事業成果		
植物の専門家である谷本氏による講演会でした。植物はそれだけが単体でこの地球上で存在しているわけではなく、鳥や昆虫、人間、あらゆる自然の中でお互いに影響を与えつつ、生きています。ある一つのことがどのように互いに影響を与えているかについて、分かりやすくお話しいただきました。			下野市は自然豊かな地域ではありますが、自然に触れることなく、都市的な生活を送ることもできる場所でもあります。この講演会に参加された方は、広く自然についての知識を得られたのではないかと考えます。また、参加した会員からは、「自然と人との関係が良く理解できた」「自然に対する見方が変わった」などの声が開かれました。今後の自然に親しむ会の活動を考える良い機会となりました			
NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
37	一般社団法人スキルチャレンジ	北海道釧路市	鈴木翔也	株式会社ユーロスポルト	小学生対象マルチスポーツ体験講習会	令和5年10月28日(土)、10月29日(日)
	講演内容			事業成果		
2日間にわたり、子供から大人まで約100名の選手及び指導者に対してアイスホッケーの実技・ノウハウトレーニング方法等を指導いただいた。また、講師の海外での選手経験や日本代表への指導経験のもと、水都・釧路としてアイスホッケーをより地域活性化へ繋げていくためには、アイスホッケー環境整備・競技人口拡大・業界の活性化が重要であり、小学校からアイスホッケーを教わり、地元のプロチームまである環境の恵まれた釧路地域は、世界レベルの選手を生み、アイスホッケー首都となるポテンシャルがあることをお話しいたした。			今回の講習会では、釧路地域での人材のみでは実施できなかった高い知識とレベルでの講習会となった。世界トッププレイヤーからの直接指導は、釧路地域の子供たちにとって、今後の選手人生において素晴らしい体験となった。また、指導者にとっては、海外・日本の他地域と比べ恵まれていることを再認識させられるとともに、釧路ならではの選手の指導方法や育成計画についてもご指導いただき、水都・釧路を盛り上げていくための方法を教わる貴重な経験となった。			
NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
38	あわ・みらい創生社	徳島県阿波市	種渡啓祐	元佐賀県武雄市長 種渡社中株式会社代表取締役	移民力を生かした持続可能な地域のつくり方	令和5年10月1日(日)
	講演内容			事業成果		
1.市民力を生かした持続可能な地域のつくり方及び武雄市長時代に行った数々の事業について講演。参加者からの質問に答える時間を30分。 2.私たちのまちづくり現場にて、評価及びアドバイスを受ける。			1.種渡氏が主催する政策起業塾で、阿波市の取り組みを2回講演することの依頼を受けました。 2.2024年5月には塾生の阿波市現地研修が決定(数十名) 3.種渡氏が阿波市及びNPO法人あわ・みらい創生社のアドバイザーに決定 4.翌日後藤田徳島県知事を表敬訪問。知事自らアドバイザーをお願いし快諾。80名の参加者だけでなく、大きな成果がありました。			
NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
39	まちづくりNPOげんき宮城研究所	宮城県石巻市	①小泉 凡 ②三國 裕子	①島根県立大学短期大学部名誉教授、小泉八雲記念館館長 ②劇団うたね、主宰、女優	文化講演会～小泉八雲をめぐって～ 地域をつくる 地域を活かす「文化資源」	令和5年11月18日(土)、11月19日(日)
	講演内容			事業成果		
レジュメに従いパワーポイントを使用しながらの説明を展開。講演趣旨に、「地域ゆかりの作家やその業績を文化資源」としてとらえれば、『文学』がひらかれ、文化と経済が垣根を超えて手を携えるようになる」と訴えた。また、「文化資源」とは、文化財を含む、地域文化の総体とくに未評価の有形・無形の文化を観光や地域振興、まちづくりなどの社会的活用の方角性をもった文脈で位置付ける際に使用する概念である、と説く。小泉八雲を文化資源として国内外にアンビュールした事例の紹介や石巻地区にも多くの文化資源があり、その活用を訴えた。			アンケート抜粋にみられるように、文化講演会を開催したこと新たに知った事柄への感謝の声が多かった。また開催してほしい、今回参加できなかった人一特に行政・議員・教育関係者そして学生・生徒に聞かせたかった、石巻博物館(会場2階)で八雲展を開催してほしい、等の感想が記入されている。八雲の「オープン・マインド」と小泉館長の研究・実践活動は、来場者の多くの学びになったと 確信する。来場者は、目標240名に対して198名(うち招待7名)だった。			
NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
40	傾聴ボランティアサークル 梨〜風	宮城県利府町	森山 英子	NPO法人仙台傾聴の会 代表理事	傾聴ボランティア養成講座	令和5年10月4日(水)、10月11日(水)、10月18日(水)
	講演内容			事業成果		
10/4 傾聴とは、信頼関係の体験 自己紹介をロールプレイングで体験 10/11 ロールプレイングとは、姿勢、開かれた問い等 傾聴活動のDVD 10/18 認知症とは認知症の方の言葉 ロールプレイング 互いの信頼関係を築くことで、本当の気持ちを聴くことが出来る。話し手の気持ちに沿って待つことも大事。聴かせていただく気持ちで、尊敬の念で聴く。人柄も磨くことが大切。自身の勉強にもなるので、ぜひ活用して欲しい。			梨〜風の新規会員の勉強と、傾聴を利府の町民に広く知ってもらうために4年ぶりに社協の後援を頂き開催。受講者は傾聴が会話と違うことに戸惑ったが回数を重ねるごとに、仕事、ボランティア活動等各自の立場で傾聴を生かしたいとの感想を得たので、傾聴の良さを発信できると考える。翌月の定例会から梨〜風に加入された方が4人おり、12月の手作り講座の準備にも参加し、サポーター養成講座も受講することになった。			
NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
41	夢咲塾	奈良県大和高田市	①花柳楽彩 ②城千恵	①花柳流師範 ②塾生	高田おかげ祭り「静御前伝承と白拍子舞の継承」	令和5年10月9日(月)
	講演内容			事業成果		
大和高田の磯野地区に古くから伝わる静御前の伝承を基に、白拍子舞を大和高田のおかげ祭り際に、龍王宮拝殿において公開するもので、大和高田の文化として白拍子舞の継承に向けた事業を実施した。最初に、大和高田と静御前伝承の時代背景についての説明があり、続いて、城千恵(白拍子舞)氏による白拍子舞披露、花柳楽彩氏による白拍子舞披露があった。 続く講演会は司会者による出演者への問答形式で、写真投影と共に、花柳楽彩氏は、花柳流の師範に至る歴史と、母で先代指導者の村山左近氏の後継として大和高田の白拍子舞の継承への経緯と決心を語られた。城千恵氏は、静御前が母を頼って大和高田に帰った伝承を含め歴史を知る大切さを語られた。			第25回高田おかげ祭りの一環として「静御前伝承と白拍子舞の継承」事業は、拝殿会場外の立見も出る程多数の参加を得て実施できた。 講演では、大和高田の静御前の伝承に纏わる歴史背景を明確に伝えることが出来、白拍子舞の継承を実施していることを白拍子舞の披露と共に、白拍子舞の継承を行っている当事者である講師2名からも、今後とも白拍子舞伝承を継続し、大和高田の文化として継承していく強い意思が話の中で確認することができた。 当日参加の大和高田市市長や市議会議員、市民の皆様の前で、これら共通認識が出来た事は今回の事業による大きな成果となった。			

令和5年度 地域づくり団体活用支援事業実績(地域づくり団体)

NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
42	(公財)しそ森林王国観光協会	兵庫県宍粟市	奥坊一広	株式会社トラベルニュース社代表取締役 まちづくり観光研究所所長	宍粟の地域資源の磨き上げと持続可能な観光地域づくりの可能性	令和5年10月13日(金)
	講演内容			事業成果		
下呂温泉や長崎県松浦市、徳島県 佐渡島等の地域の様々な事例や知名度の低い宍粟市を、似たような環境を持つ全国で知名度の高い観光地に結びつけた情報発信の強化により広く伝えていくこと、地域づくりが大事であり、地域づくりがあって観光に繋がることの大切さ等説明される中で、その熱心には、ポジティブに物事を考え、地域の人たちがひとまかせにしないで、地域に対していかに熱心であるか、観光は人が行うもので人がいれないと始まらない。成功事例を参考にすることで、挑戦事例を参考に、動かなくては何かかわらない、自分が主体、よそ者をうまく活用していくこと等が地域づくり 観光へと繋がることの話をしていただいた。			会場のキャパシティの関係で50名定員とし参加を募ったところ、当日は49名の参加があり、市民をはじめ観光関連事業者、地域づくり団体等の関心は高いと感じた。地域資源の磨き上げ、情報発信の強化など観光地域づくりの取り組みの切り口のヒントとなる講演を聴講し、観光事業者等を中心に意識の高揚が図れた。今後も、継続的な講演会等の開催により、市民をはじめ観光関連事業者及び地域づくり団体の意識醸成に粘り強く取り組むことが必要と感じた。また、奥坊氏から中小旅行会社へのモニターツアーの提案を受けたことなど、実践に向けた取り組みが期待される。			
NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
43	いちかわライブネットワーククラブ	千葉県市川市	①山科 章 ②木村 則彦 ③五関 雅子 ④木村 洋介 ⑤三原 由紀 ⑥光井 浄司 ⑦桜井 健司	①桐生大学 副学長 ②木村 則彦 ③五関 雅子 ④木村 洋介 ⑤三原 由紀 ⑥光井 浄司 ⑦桜井 健司	いちかわTMO特別講座「TMOシンポジウム」 ～街づくりから考える、健康長寿コミュニティの実現～	令和5年11月18日(金)
	講演内容			事業成果		
「街づくりから考える、健康長寿コミュニティの実現」をテーマとして外部講師を招き「TMOシンポジウム」を開催した。健康長寿な高齢期を過ごすには、健康管理と生活習慣の維持、社会的なつながりと活動、経済的な安定が大切だと確認した。多様な分野で活躍する TMO 講座修了生の、それぞれの活動が、地域の相互連携のなかで健康づくりに役に立っていることを、地域のみならず、行政や学識経験者の方々と共有確認することができた。			山科先生から、全国規模で活動する「健康アンバサダー」の取組みをご紹介いただき、市川市でも検討を進めるきっかけをいただいた。また市川市スポーツ部の立場部長からは、今後の運動施設拡充の説明をいただき、元市川市長で、認定 NPO 法人健康都市活動支援機構理事長の千葉光行様ほかの方々も登壇者、参加者との交流を深め、今後の活動の視野を広げることができた。			
NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
44	カッキークラブ交流会	奈良県五條市	岩出 景子	野の花文庫・野の花赤ちゃんルーム主宰	みんなでわらべうたを楽しもう	令和5年12月9日(土)
	講演内容			事業成果		
午前中の、乳幼児と保護者を対象とした時間では、わらべうたをうたいながら、子供とふれあう遊びの方法を教えていただいた。また、年齢に合った絵本の紹介に加えて、子供との絵本の楽しみ方や、読み聞かせの際のアドバイスもいただいた。参加した乳幼児も興味を示していた。午後(講演内容・アドバイスは、保育士やおはなし会のメンバー等を対象に、年齢別に楽しめるわらべうたや絵本の紹介を、実践を交えながら教えていただいた。普段子供と接する仕事をする参加者にとっても、新たな発見があり、有意義な時間となった。参加者の中には、わらべうたに親しみのない方もいたが、今後の子育てや保育活動に生かせるような、具体的な実践方法の紹介がわかりやすいと好評であった。			親子で参加された方は、「わらべうたの良さを初めて知った」、「是非子供と楽しみたい」との声が聞かれた。保育士からは、「子供との接し方の分からない保護者にも、わらべうたを通しての触れ合い方を伝えたい」という感想や、「こども園に再度講師として来ていただきたい」と講師の先生へ交渉されている園もあった。本事業を通して、今までわらべうたに触れたことのない子育て世代や保育士に対し、わらべうたを取り入れた子供との関わり方を伝えることができた。私たちが、通常の読み聞かせの他に、今後のプログラムにわらべうたを取り入れ、より幅広い年代の参加者を募ることで、地域内の交流のさらなる活性化につなげていきたいと考えている			
NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
45	みあさの森	長野県大町市	小島利恵	看護師	性のおはなし	令和5年11月22日(水)
	講演内容			事業成果		
大人向けでは、子どもたちに伝える時に大切に伝えてほしいこと、そのために知っておいてほしいこと、体のパーツの名前、プライベートゾーンのルール、洗い方、扱い方。生命の誕生に関わる性交渉の話。性の多様性も個性。子どもたちにいろいろな人や価値観、感動を出会わせていこうという内容。子ども向けにも同内容を分かりやすく、60分先の1で誕生する奇跡で愛おしい存在であり、自分を大切にすることを伝えていただいた。			今回はメディアでも話題の内容だが、家庭で向き合いくいテーマ。そのための講師の選択として全国で活躍する方をお願いしたが、ご支援いただき参加費をおさそ多くの方に参加していただくことができた。平日であったが、子どもたちの参加は恥ずかしく落ち着かない子がいたものの、アンケートでは、その場に行ったことで以外にも聞いてくれたことが分かり、成果を感じられた。また、父母はもちろん、医師、看護師、保育士と幅広い参加は地域全体で問題に向き合えたと感じられた。			
NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
46	梅が里ギャラリー手づくり屋	長野県上伊那郡 富田村	①唐木 ゆかり ②春日 節子	①洋裁師 ②洋裁師	目指せ！SDGsできることからエコ活動 着物を活用リメイク講座	令和5年10月11日(水)、11月8日(水)、12月13日(水)、令和6年1月10日(水)、2月14日(水)
	講演内容			事業成果		
10月2日までの5日間、着物のリメイクを目的とした教室を開催した。講師の唐木ゆかりさんと春日節子さんは、洋裁学校を卒業し、過去に2人でリメイク教室を主とした店を営んでいた経歴もあり、2人で連携して複数人の生徒たちの指導を実践していただいた。今まで自己流でリメイクをしていた、リメイククラブの仲間たちに加えて、新たな初心者も生徒に加わりリメイクの基礎的な知識を学んだ。家庭で不要となっている着物のリサイクルということで、まずは、古い着物を、どのように洗濯をして、糸をほき、再利用するための布の形にするか、という準備から指導をうけた。虫食いや汚れなど、反物を扱うとは違った、扱いの工夫を学んだ。具体的な作品作りは、初心者向けのチュニック、2種類の作り方を、型紙や手順書などの資料を提示して指導していただいた。			高齢者や障害者なども加わり、月1回のリメイク倶楽部の活動が定着していたが、素人集団であり、きちんとした製品作りができるメンバーは一部のみであった。今回講師の先生を迎え、基本的な知識と技術を得て、定着しているクラブ活動がより、発展性のある活動となった。2021年に活動を開始し、口コミで少しずつ会員も増えていたが、今回の教室の開催で、15名の会員の他に新たに16名の参加者が増えた。障害を持つ若者や高齢で家に引きこもりがちの方々も、仲間たちが協力して誘い出しを行い、活動にも参加できるようになっている。商店街の空き店舗に着物のリサイクルBOXを常設し、廃棄される着物を回収するシステムができ、街中活性化や障害者や高齢者の生きがいづくりの活動に発展している。教室が終了した後も、引き続き、参加費を徴収し、教室の継続を行っていく方針である。3月に、今まで参加した生徒達の交流で、来年度、新たな参加者を募る目的で、作品の発表、展示会の場を設ける。日本の伝統文化である着物を活用したリメイク品の開発や作成を行ない、できあがった製品は、個々が持ち帰り生活に使うと共に、今後は新たな商品開発で販売等にもつなげ、障害者や高齢者が障害現役で働き収入を得るとい、モデル的な仕組み作りに取り組んでいきたい。			
NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
47	認定こども園NPO法人山の遊び舎はらべこ	長野県伊那市	小森夏花	農場経営者	第16回山の遊び舎はらべこ子育てを考える集い	令和6年1月13日(土)
	講演内容			事業成果		
「子どもたちにとって豊かな食とは何か？」と題し、知っているようで知らない身近な子どもたちの食の現状を知り考えるため、様々な角度から食について数回に分けて内部勉強会を行い、映画「土を喰らう十二月」上映会、七草農場小森夏花さんと当団体に保育活動を担っている小林成親園長との食についての対話を開催しました。			七草農場小森夏花さんと小林成親園長による食についての対話の中には共存、平和の大切さ、今を生きる私たちが未来を生きる子どもたちへつないでいけることは何かを参加者と共に学び、考える場となりました。参加者同士のつながりも生まれる場となり地域活性にも貢献できたように思います。			

令和5年度 地域づくり団体活用支援事業実績(地域づくり団体)

NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
48	特定非営利活動法人 街・建築・文化再生集団 (RAC)	甘楽郡南牧村	①松本 継太 ②丸橋 利光 ③志賀 正	①白川村教育委員会事務局文化財係課長補佐) ②島村蜜のふるさと会 ③南牧村山村くらし支援協議会々長	山村の原風景・歴史的風土を継承するために	令和5年10月29日(日)
	講演内容			事業成果		
<p>28日の見学会は32名の参加となった。南牧村教育長、職員の方に大仁田、星尾仲庭、大上、観能集落をご案内頂いた。見学会では参加者、講師の方々に、RACが訴える、継承すべき南牧村の集落景観をご理解頂けたと考えている。講師の方々からは歴史的風致を活かしたまちづくりについてそれぞれアドバイス頂いた。</p> <p>29日のフォーラムは、米山 RAC 理事の全国各地で重伝建選定とそれを中心軸にまちづくりに奔走した人達、地域づくりに欠かせない人達の事例報告から始まった。長谷川村長からは村落景観保全のために古民家再生事業の紹介があった。白川村の松本氏は、白川村住民が村の景観と歴史を継承するための活動と現在抱えている問題点等の報告をされた。丸橋氏は重伝建選定を目指す伊勢崎市島村集落の取り組みと直面している問題点を報告した。</p> <p>午後のフォーラムは南牧村で山村暮らしを支援している志賀氏 事例報告を頂き、南牧村の歴史的山村景観継承の方策を議論した。</p>						
49	NPO法人アルファグリーン ネット	兵庫県淡路市	①水本 健一 ②マコト	①吉本興業株式会社 ②吉本興業株式会社	ALPHA祭2023 「淡路をもっと好きになる～エシカルから～」	令和5年11月4日(土)
	講演内容			事業成果		
<p>「淡路をもっと好きになる エシカルから～」から「あわじのステキなものみつけ!」にわかりやすく表題を変更しました。span!のお二人がアルファグリーンツアーに参加し参加者と関わったり、多目的ホールでのSDGs 漫才やSDGs クイズ、実行委員会学生とのやり取りでALPHA祭を盛り上げ、全開正解者には淡路で事業をされている方の 賞品や span! さんのサインも準備し楽しみを高めました。</p> <p>span!のお二人が「笑い」でSDGs やエシカルについて老若男女問わず参加者にわかりやすく話してくださいました。淡路島在住の方に留まらず、会場に集まった全ての人の生活の質を高め、地球環境に優しい暮らしに繋がったと思います。難しいテーマをかみ砕き笑いでわかりやすく伝えて頂きました。</p>						
50	NPO法人ルネッサンスファクトリー	富城県加美郡色麻町	①三ツ石 将嗣 ②道越 万由子	①次世代政策デザイン研究所代表 ②株式会社Beyond 代表取締役社長	無名なまちの観光を考えるシンポジウム	令和5年11月23日(木)
	講演内容			事業成果		
<p>観光客はその地域の食べ物やモノよりも、体験コンテンツの方に魅力を感じている。色麻町には農業や郷土料理体験など、資源が豊富にある。サイト構成は、イベント情報よりも、どんな地域で何があるのかを目立たせる。魅力的なコンテンツを用意しても、キャパシティ以上の人が来るとオーバーツーリズムになってしまうため、少ない人数でも、人間関係を作りながら、じっくりと関係人口を増やす方がいい。地元の人困りごと、地方での体験を求めている人をマッチングすることにより、地域の課題解消と関係人口作りを一体化する。観光は、ただ単に人が来ればいいということではなく、金を生み出さなければならず、どうやってマネタイズするかは常に考える必要がある。</p> <p>シンポジウムに参加した町会議員の人は、今回聴講したことをもとに、政策を考え提案していくと言っていた。行政職員は、講師らとつながりをつくり、様々な情報交換をしていた。また、講師らは、交流会で振舞われた郷土料理の「きりこみ」(味噌味のイカの塩辛)にインスピレーションを受け、道越氏が関わっている五島列島の漁師町から出る魚の未利用部位に、きりこみの料理を活用して新たな特産物を生み出すとともに、九州の漁師町と東北の農村部という対照的な町同士のつながりを生み出そうという構想を語っていた。そこに行政職員やNPO会員等が賛同し、新たなプロジェクト化にすべく動き出そうとしている。以上のような、様々な好影響が出ている</p>						
51	特定非営利活動法人 BeCOM	千葉県銚子市	特定非営利活動法人BeCOM	歌人	心を表す言葉と出会う ～COM CUP英語・日本語スピーチ大会開催を通して～	令和5年12月17日(日)、12月18日(月)
	講演内容			事業成果		
<p>佐佐木定綱氏曰く「季語もなく、特段難しいルールがあるわけではなく、五七五七七の三十一文字、三十一音で、伝えたい気持ちや心情、情景などを、なんとなくがらばつて伝えようと、千年以上の長きにわたり、伝え続けている文藝」が短歌である。本企画では、昨年、若者世代に興味、関心が広がっている「短歌」を18歳以下(U-18)から募集し、佐佐木氏に選評いただく特別な機会とした。応募総数は181首。市内の小中学生、中学生、高校生が自主的に、想いを込めて応募したというよりは、学校での学びを通して紡いだ言葉で、先生方の後押しにより地域の学びの機会で見直しされたものであった。</p> <p>佐佐木氏は16首を選び出すとともに、幾度も「すばらしい。」「うまい。」とほめながら選評を行い、選評を通して、比喩、暗喩、倒置法、漢字と平仮名の使い方、字余りや字足らずのこと、名詞や動詞を折り込むことで歌に強さが増すことなどをわかりやすく興味深く感じられるように指導くださった。</p> <p>例年のスピーチ大会では英語や、国際理解教育に興味のある学生や家族、英語教育関係者の参観が中心となるが、本企画により「気持ちや考えを言葉で表現すること」について興味をもつ学生や指導者、さらには短歌を趣味とする市内在住の高齢の方々若くは若い世代の短歌を楽しむに足を運んでくださるなど多世代の文化的な交流が進んだ企画となった。</p> <p>佐佐木氏から、「とにかく短歌を作ってみること。小説を書くよりはおそろしく簡単に作れるはず。」とさりと言われたことで、アンケートに「短歌を作ってみたくなった。」という声があがったことはおどろきであった。</p> <p>豊かなコミュニケーション能力としての語学力向上に挑戦する学習者が増えていること、その挑戦に対する強く温かな応援の輪が広がっていくこと、以て自分の可能性と共に国際理解の意識が醸成されることを目指したい。</p>						
52	一般財団法人淡路島くうみ協会	兵庫県洲本市	浦上 雅史	淡路島弁財天殿島神社宮司	第4回淡路島くうみ講座	令和5年11月9日(木)
	講演内容			事業成果		
<p>当講座は、当協会の主たる事業として、島内外の人々に、淡路島のすばらしい自然、歴史、文化等を広く知っていただくとともに、淡路島の地域活性化と淡路を担う人づくりを目的として年数回開催している。今回は、淡路島の歴史に詳しい浦上雅史氏に「庚午事変とは何だったのか」と題して講演いただいた。</p> <p>終了後のアンケート結果をみると、9割以上の方が「大変満足」又は「満足」と回答している。また、60代以上の高齢者の参加が多い講座であるが、50代以下の方も13%を占め、浦上氏の淡路島での知名度、人気もあって初参加も4割と多かった。新たな参加者層の開拓につながったことに加え、地元の歴史への関心を深めていただけたと評価している。</p> <p>以上の結果を踏まえ、今後も、情報配慮を行うイベントとして多くの方に参加いただける講座を目指すとともに、引き続き当講座の目的である淡路島の地域活性化と淡路を担う人づくりに向けた講座を開催していきたい。</p>						

令和5年度 地域づくり団体活用支援事業実績(地域づくり団体)

NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
53	特定非営利活動法人シャローム	福島県福島市	渡辺大輔	ケーナ奏者	ひまわりプロジェクト”ふくしま”で咲かせよう交流の輪	令和5年12月16日(土)
	講演内容			事業成果		
今事業のゲスト渡辺さんは茨城県出身で、3.11の震災を体験しており、公務員として被災地支援にも関わった経験をお話されました。その後プロのケーナ奏者となり被災地での音楽活動を続ける中で「被災地に寄り添うこと」の意味を「今できる精一杯の演奏を聞いてもらうことだ」と気づいてからは、演奏が変わったという経験をお話されていました。支援するという立ち位置からでは、本当に寄り添うということにはならないと気がついたということだと思います。共生の地域づくりを目指し、進めている「ひまわりプロジェクト」と共感できる内容で、ケーナの澄んだ音色が大きなホールに響きわたる観客を魅了しました。			ケーナ演奏と共に語られた皆さんの経験や気付きは、私たちが「共生」をテーマに活動する“人はひとりでは生きていけない”共に助け合い、支え合い、分かち合っていくという趣旨にあっていました。そして、この日障がいを持つ仲間たちのオンステージでは、障がいを持つ仲間の詩を障がいを持つ仲間が朗読し、その詩に感動し作曲をしてくださった渡辺さんが、後方で演奏するシーンを味わうことができました。その曲は「萌芽」と名付けられました。文字通り「ともに生きる仲間たちのコンサート」をゲストと共に開催することができました。			
54	いちほら市民活動協議会	千葉県市原市	御園生 文雄	元学校長	市民の力で子どもたちの命を守るシンポジウム	令和5年11月18日(土)
	講演内容			事業成果		
市原市では令和5年から3か年計画で公立学校のコミュニティスクール化を行うこととなった。そこで学校における教職員の負担軽減と生徒とのコミュニケーションの促進、地域との連携強化を図り、住みよい地域、楽しい学校の為のシンポジウムを開催した。講師には元小・中・高等学校校長でもあり、元学校運営アドバイザーでもある御園生文雄氏を招き、体験談を交えてコミュニティスクールの運営とワークショップによる情報交換を行った。			当日は、市内の学校ではバザーや授業参観、PTAの役員会議等が開催されており、学校関係者の参加者が少なく残念でしたが、参加者よりのアンケートを見ると、「コミュニティスクールに関することが大いに理解できた」と、「地域と学校との連携をもっと促進すべき」との意見が見られた。予定としては1中学校区単位でコミュニティスクールを形成するので、委員の選出に苦労があると思われる。			
55	NPO法人棚田LOVERS	兵庫県神崎郡	①片山 郁夫 ②内山 昭一 ③佐藤 裕一	①片山地域応援事務所 代表 ②NPO法人昆虫食普及ネットワーク 理事長 ③昆虫エネルギー研究所 代表	稲刈り、生き物を地域づくりで活用する事例を通じて学ぶ研修会	令和5年11月4日(土)
	講演内容			事業成果		
2013年より10年近く稲刈りなどを通じて地域を活性化することを指導されている経験、自然体験や地域づくりに詳しいことを活かして、いかに稲刈りで楽しむか、具体的な稲刈りの仕方(手がケガしないように刈らない方の手は逆手で稲を持つなど)などその実践のお話を伺った。			地域を活性化することを指導されている経験、自然体験や地域づくりに詳しいことを学び、参加者の知識、実践力向上につながった。そして、稲刈りも丁寧に教えていただくことで、参加者の満足度向上につながる成果が得られた。			
56	ディスカバーまかべ	茨城県桜川市	①梅津 章子 ②藤川 昌樹 ③河東 義之 ④柳亭 市寿	①文化庁文化財第二課伝統的建造物群部門主任文化財調査官 ②筑波大学社会工学科教授 ③小山工業高等専門学校名誉教授 ④落語家	全国町並み保存連盟理事会および関東ブロック会議「歴史と文化、次世代に繋げる真のまちづくりとは」	令和5年12月2日(土)、12月3日(日)
	講演内容			事業成果		
去る12月2日、3日、ディスカバーまかべ発足30周年記念事業、及び全国町並み保存連盟関東ブロック会議を上記場所にて行った。2日は、桜川市長はじめ、文化庁主任文化財調査官「梅津章子氏」、真壁の歴史的建造物に造詣深い河東義之先生、藤川昌樹筑波大教授、そして全国町並み保存連盟会員と、ディスカバーまかべ会員、また、当会の友好団体の長、約30名を集め、有意義な情報交換会を行った。2日午前中は、桜川市真壁町並み案内ボランティアの案内で、真壁の町歩きを行い、その後、全国町並み保存連盟関東ブロック会議を行った。そこで、文化庁主任文化財調査官、梅津章子氏の講話を拝聴した。午後は、ディスカバーまかべ発足30周年記念事業を真壁伝承館にて約120名の住民参加のもと行った。河東、藤川の両先生、当会長による、今回のテーマに沿った「鼎談」形式で意見交換を行い、その後、落語家「柳亭一寿」氏による町なか落語会を行った。			当事業の目的、『真壁の歴史的建造物が平成21年に所謂「重伝建」に選定されたが、翌年東日本大震災にて大きく被災してしまっ。しかし、国、県の大きな支援があり、その後急速に復旧をした。だが、制度を生かしたまちづくりという観点からは未だという感がある。そこで、これからの方向性について考える場にした」と事業を計画した』について、全国町並み保存連盟会員、そして真壁の住民と共に考え、意義のある事業が開催でき、今後の制度を活かしたまちづくりに進捗する大いなる参考になった。			
57	公益財団法人 安芸高田市地域振興事業団	広島県安芸高田市	小林 元	一般社団法人 日本協同組合連携機構 基礎研究部長	地域振興人材育成研修会	令和5年12月12日(火)
	講演内容			事業成果		
「農業農村の地域政策とJAの役割」を講演テーマとして、広島県北部地域の現状及び課題を認識するため、食料・農業・農村基本法の見直しの背景や、生産基盤を維持する担い手を含む人口の動向等が示された。地域住民の要望を施策に繋ぐための支援組織の在り方や、求められる行動、また、女性の力を引き出せる地域社会の構築等について解説がされ、地域の課題解決のため、対話を通じた人と人との繋がり的重要性を説かれた。			この研修会は当市の人口の減少に伴う担い手の不足並びに農業従事者の高齢化により、地域の生活機能の確保や生産基盤の維持が困難となることと想定されることから、地域の現状を踏まえ、支援組織としてまた地域に住む住民として、行動を興す人材を育成することを目標とした。事後のアンケート結果も受講満足度は高く、地域住民の要望を施策に結ぶための人と人との繋がり的重要性、自らの立ち位置の自覚と行動等に関心が寄せられた。少ない人口規模でも人の繋がりで生活機能を確保するとして今後のまちづくりに活用できると考える。			
58	公益社団法人 長野県建築士会佐久支部	長野県佐久市	山口剛史	カーリング選手、SC軽井沢クラブ所属	一流アスリートから学ぶ	令和6年2月9日(金)
	講演内容			事業成果		
ミラノ五輪を目指し、活躍する山口選手のお話を聞きました。カーリングを始めるきっかけとなったお話は、地元で使われなくなった材木工場の利活用を地域の方達が考え、カーリング場をつくる事になった経緯や、人口約120名の小さな村で、毎晩、大人から子供が集まる場となり、地域の活性化へと繋がったお話。チーム作りに関するお話は、チーム作りに必要なティーチングとコーチングについてお聞きしました。ティーチングは、教える事を主としているのに対し、コーチングはヒントを与え、相手に考えさせ、答えを導き出す。スポーツだけでなく、会社の人材育成にも繋がるお話を聞く事ができました。			ミラノ五輪出場に向け頑張っている山口選手の講演を聞き、参加された皆さん、有意義な時間を過ごすことができました。競技についてのお話は、目標に向かい日々努力する姿に、種類は違いますが目標を持つことの大切さを学びました。カーリング場ができた経緯のお話は、地域の活性化のヒントを得る事ができました。チーム作りのお話は、会社での人材育成、地域での活動等に置き換える事ができる内容でしたので、各々の立場で、ティーチングだけでなく、コーチングを重要な事を知る事ができました。			

令和5年度 地域づくり団体活用支援事業実績(地域づくり団体)

NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
59	特定非営利活動法人なんぶねっと	青森県南部町	①阿南健太郎 ②小宮香 ③根市大樹 ④萩原洋子 ⑤下町三三夫 ⑥山本耕一郎	①子ども家庭庁成育環境課課長補佐 ②五戸町家庭教育応援隊 ③NPO法人学びどき 理事長 ④NPO法人子育て支援ネットゆりかご 理事長 ⑤パパママふぁいと協会 代表 ⑥青森八戸を面白くする市民集団「まちぐみ」組長	ボランティア市民活動ネットワーク事業八戸圏域研修会 ～子どもまんなかのきょういく(共育・協育・協育)～	令和6年1月20日(土)
	講演内容			事業成果		
講師に子ども家庭庁成育環境課課長補佐の阿南健太郎氏をお招きし、「子どもまんなかのきょういく(共育協育・教育)」と題しての講演、八戸圏域から子どもに関わる活動を展開している5団体から事例発表・紹介の第1部と「子どもまんなか社会～みんなが健やかに暮らすために」をテーマに学校、家庭、地域からそれぞれパネリストを1名ずつ、コーディネーターに阿南市でパネルディスカッションの第2部の構成による研修会を開催。開会前と開会後には参加者同士のネットワーキングタイムとして、横のつながり、ネットワーク強化を目的に行った。			地域課題解決に向けた市民の自主的自発的な取り組み、活動=ボランティアと考え、私たちが住む地域を形成していく重要なものは多種多様なそこに住む人の活動であり、その活動がどうつながり、どう相互作用するかで地域が大きく変わっていくと考え、八戸圏域8市町村を様々なテーマの研修会開催という手法でまわることで、市町村の枠を越え、多種多様なメンバーで考え、共有する機会とすることができた。 また、子ども家庭庁成育環境課課長補佐の阿南健太郎氏を講師にお招きし、国が目指すところをしっかりと地域の関係する方々で共有できたことはとても大きい成果。八戸圏域だけではなく、8市町村外からも参加があり、今後目指す青森県でのネットワーク構築のスタートを切ることができた。			
NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
60	みやざき地域おこし協力隊ネットワーク	東臼杵郡椎葉村	福島 梓	一般社団法人日本即興コメディ協会 理事	宮崎県地域おこし協力隊・担当者研修会	令和5年11月27日(月)、11月28日(火)
	講演内容			事業成果		
【開催1日目 11/27】 ○コミュニケーションスキル講座「地域づくりも人が鍵! コラボレーションやイノベーションが進む 仲間づくりのためのコミュニケーション」 一般社団法人心理的安全性アンバサダー協会福島梓氏 ○クラウドファンディング活用講座「クラファンを通して考える、任期中にやりたいことやってほしいこと」 株式会社 CAMPFIRE 橋本尚也氏 ○「宮崎県事業承継・引継ぎ支援センターの取り組み」 宮崎県事業承継・引継ぎ支援センター 岡村巖氏【開催2日目 11/28】 ○テーマごとに地域おこし協力隊・OBOGの事例共有 ○テーマごとに参加者同士の意見交換			【参加者の開催後アンケート結果】 ○満足度 5段階中平均 4.3 ○満足度の理由(一部抜粋) プログラムの内容が良かった。 ・様々な業種の方々から意見が聞けて自分の力になることが多かったのと人とのつながりが増やすことができたから ・他自治体の協力隊員と交流ができたことと、コミュニケーションスキル講座でアイスブレイクの方法を学べたから 普段他の市町村の地域おこし協力隊の方と話す機会がないため、人脈を広げられた。また、他の市町村の取組をお話を聞くことができ、今後相談しやすくなったと思う。 普段はなかなか足を運べない県内地域の方ともつながりを得られたため。また、自治体関係者とともにこのようなワークショップに参加できたのは、大変意味のあることだと感じたため。			